

節電・省エネ対策の前に

- 各設備ごとのエネルギー使用量をチェックし、使用実態を把握しましょう。
- 社内に必要性を周知し、社員全員で取り組みましょう。
- お客様にも理解を求めましょう。



節電・省エネ対策に当たって

- 節電・省エネのリーダーを決めて、取組状況の確認や呼びかけを定期的に行うようにしましょう。
- 対策後のエネルギー使用量をチェックし、節電効果を確認しましょう。
- 新しい節電・省エネ方法を常に探しましょう。

徹底しましょう!基本の取組

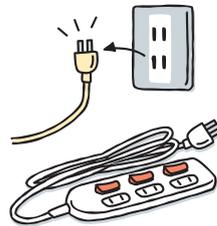
1 パソコン・OA機器の省エネ設定



パソコン、コピー機、プリンターなどは一定時間使用しないと、省エネルギーモードとなる設定にするだけで、かなりの省エネになります。また、パソコンについては、ディスプレイの輝度を下げるのも有効です。

- エネルギー削減量 28,800kWh/年
 - 削減費用 52万円/年
- 全てのPCとコピー機について上記の対策を実施したとして算出

2 パソコン・OA機器の待機電力カット



OA機器は、スイッチが入っていても電気を消費しているため、使用していない時間はコンセントからプラグを抜くと、この待機電力をカットできます。スイッチ付きの節電タップを利用すると便利です。

- エネルギー削減量 1,843kWh/年
 - 削減費用 3万円/年
- 全てのPCについて上記の対策を実施したとして算出

3 室温設定の見直し



暖房の設定温度を22°Cから20°Cに下げると、空調に係るエネルギーを20%削減できます。併せて、体を温める工夫をすれば無理なく実施できます。

- エネルギー削減量 11,270m³(都市ガス)
 - 削減費用 109万円
- 暖房期間中(11月~4月)の効果

4 夜はブラインド・カーテンで窓面保温



窓は、熱が逃げやすい場所です。日差しのない夜には、ブラインド・カーテンを下ろすことで、熱が逃げるのを軽減できます。加えて、ガラスに断熱フィルムなどを貼るとさらに効果的です。

- エネルギー削減量 235m³(都市ガス)
 - 削減費用 2万円
- 暖房期間中(11月~4月)の効果

5 給湯器の温度設定見直し



電気給湯器の温度は、水洗い等に使うのであれば60°Cなど、用途に合わせて設定を見直しましょう。休日は電源を落とすことを徹底すると、さらに効果的です。

- エネルギー削減量 20,080kWh/年
 - 削減費用 36万円/年
- 全ての給湯器で上記の対策を実施したとして算出

6 不要な場所の照明消灯を徹底



会議室、更衣室、トイレ、応接室など、使用していない場所の照明はこまめに消しましょう。

- エネルギー削減量 18,000kWh/年
- 削減費用 32万円/年

7 暖房便座の温度設定の見直し



使用後にふたを占めることを徹底すると15%のエネルギーを削減できます。さらに、温度設定を高温から低温にすると、45%の省エネになります。

- エネルギー削減量 2,920kWh/年
 - 削減費用 5万円/年
- 全ての暖房便座で上記の対策を実施したとして算出

※省エネ・節電効果の試算条件

延床面積10,000m²、従業員500人、暖房の熱源としてガス温水ボイラーを使用しているセントラル空調のオフィスビルを想定して算出しています。また、OA機器等の台数、電気、都市ガスの単価は下記の数値を使用しています。

- パソコン500台 ○コピー機20台
- 給湯器10台 ○温水暖房便座20台
- 電力単価 18円/kWh
- 都市ガス単価 97円/m³